

【事業実績】共創で紡ぐ、桑都・八王子の歴史文化継承と博物館機能強化事業

当該事業では、高齢者を主たる対象に郷土の歴史文化を題材としたワークショップをはちやくや地域包括で開催。効果的に高齢者への周知を図るため、開催周知等を地域包括にも手伝ってもらうことで、普段博物館に訪れない人にも訴求を行う。ワークショップの内容も地域包括からの提案や要望を柔軟に受け入れ、従来にない視点を取り入れ双方の良さが活きるワークショップを企画していった。

地域包括と連携したはちやく「集いの拠点化」事業

○地域包括経由でいらした高齢の方をはじめとして、多くの人が楽しめる内容を企画

●お手玉(むかしあそび)イベント 市民団体の協力を得て、お手玉で遊ぶ会を実施

2024年7月28日(日)参加者14名、8月25日(日)参加者11名、9月29日(日)参加者17名

●養蚕農家ワークショップ 東京都内唯一の養蚕農家の協力のもと、繭や絹糸を使ったワークショップを実施

2024年11月17日(日)参加者92人、12月8日(日)参加者66人、2025年2月9日(日)参加者66人



参加者の声(抜粋)

「幅広い世代の交流が出来、楽しんでいました」「孫を誘ってみたいです。」「小さい子供から高齢者まで楽しめるもので、皆さん楽しんでいたのが良かったです。」「年齢を問わず誰でも参加でき大変良いイベントだと思いました。」「大人は参加不可で子供のみOKというイベントが多い中、ご高齢のかたも参加OKなのはとてもうれしかったです。」

○高齢者の方向けイベントを、回想法と認知症予防を重要な観点として取り入れ実施

●白地図ワークショップ 昔の区割りだけを記した古地図を、思い出を頼りに中身を書き込んでいくワークショップ

2024年10月24日(木)8人 地域包括から要望があり、事業終了後も開催予定(直近は令和7年3月予定)

●回想法や高齢者による子供達への文化継承を目的とした民具貸出 包括及びNPOの要望により貸出

2024年12月26日(木)、2025年1月30日(木)、2月24日(月)

●はちやく懐かし談話会 懐かしい民具や投影模型等を使い、昔の思い出を語りあうイベント

2025年1月10日(金)6人 2月17日(月)2人



参加者の声(抜粋)

「食べ物があまりなかった時代、地元によって食べれるものも異なることが分かった」「八王子市に住んで70年過ぎま

した。とても話しやすく今回のようなイベントが良いです」「今後もときどき開催してほしいです」

「自分は浅川育ちで小学生の遠足は高尾山だったため、投影模型により思い出せたことがたくさんあった」「遠足のお話から兄弟喧嘩のお話に気が付いたら移っていたのが面白かった。また来たい」

○今後の地域連携も見据え歴史文化に詳しくない人でも親しめるツールやコンテンツを製作

●マンガ「まんがで読む八王子空襲」、紙芝居「鑓水商人と絹の道」の製作

●ローカルマガジン「ミコタマ」の製作

帝京大学の学生が八王子の文化の担い手に取材を実施し、学生の目線で八王子の文化を記事として紹介

●立体投影模型「高尾山と周辺部」のコンテンツ製作

高尾山の文化や自然について深く知ってもらうため立体投影模型のコンテンツを拡充。あわせて、マニュアルとデジタルアーカイブの環境を整備し、市民がコンテンツを作成出来る環境を整備した



講演、研修を通じた市内外への地域連携波及事業

○博物館の可能性を市民、市内や多摩地域の関係団体に周知、波及させるとともに、はちはく的活動や保有する文化資源を宣伝し、今後の連携の強化や発展のための基盤づくりを行った

●回想法研修 博物館資料を用いた回想法について学ばせ、回想法サポーターを育成した

講師：来島修志 2024年10月1日(火)・8日(火)の連続講座の開催 参加者20名

●講演会「これからの博物館と地域連携」 市内外の関係者向けに博物館と地域連携の先進事例の公演会を実施

講師：緒方泉、可児光生、伊藤明良、武市金吾 2025年2月14日(金) 参加者42名



参加者の声(抜粋)

「始めてこの研修に参加した時、何故郷土資料館が関係しているのか、全く想像できなかった。しかし、資料の活用等、外に出ていくことも見据えており、なるほどなと感じた」

「今後、どう館内の理解を得ていくか、どう地域と話を進めていくのか課題は多いですが、「わくわく」しています」

「改めて、文化芸術、博物館の価値に目を向け、どう市民の福祉の増進に繋げていけるかを考えていきたいです」